

そよげ風

山口市立小郡小学校学校だより
平成25年度No.6 (通算46号)
平成25年9月25日

子どもの時に「させたい体験」

校長 藤田辰夫

日本教育界に多大な影響を与えた、森信三先生は、50年前に、子どもの基本的な躰は「返事・挨拶・後始末」の3つだと書いています。最近では、これに加え、子どもたちの日常的な体験不足も指摘されています。ある雑誌に掲載されていた、有識者が選んだ、「子どもにさせたい体験」のベスト5を紹介しておきます。

○ベスト1 「家事の手伝い」

家事の大変さの理解と家族の一員としての自覚やお互いを思いやる気持ちを育てるのに役立つといえます。学年に応じて、例えば庭掃き、新聞の取り込み、風呂洗い、雨戸の開け閉め、食事の準備や後始末、食器洗い、自分の靴洗いなどです。

○ベスト2 「本を読む」

読書の効用は言われ続けているところです。読むだけでなく、これに読み聞かせも大切だと指摘しています。本校では、図書ボラさんの読み聞かせを、高学年の子どもも楽しんで聞いています。

○ベスト3 「自然を感じる・味わう」

川や海遊び、キャンプや農業体験など、自然とふれ合い、自然の音や風を感じる体験から、驚きや感動を素直に表現する子どもに育ち、自然を大切にす心や忍耐力が育つといわれています。昔の中国に、「浩然（こうぜん）の気を養う」という言葉があります。「浩然」とは、天と地の間に充満している非常に大きく強い「気」で、自分の行動が正しければ、この「気」が身体中に満ちて、何事にも屈しない道徳的な勇気になるとされています。このことから、自然とふれあうことで、正しくたくましい精神が育つといえます。

○ベスト4 「地域の伝統行事や地域主催行事への参加」

地域や公設機関などで様々な行事が行われます。日頃なかなか経験できない催しもたくさん開かれます。お祭りや自然体験などの貴重な体験もでき、社会性が身につくと指摘されています。また、地域の方々に、子どもの顔と名前を知ってもらっておくと、事件や事故などいざというときに強い味方になってもらえる可能性もあります。

○ベスト5 「異学年のスポーツ少年団や文化団体への入部」

横並びの集団よりは、縦割り集団はその中に規律があり役目もあります。また、多くの人と接することで社会性や感謝の心も醸成できると指摘されています。かつては、地域の異学年の集団で遊ぶということがありましたが、現在ではほとんどありません。スポーツ系は、それぞれの競技の特性で身につくことも様々あると思います。文化系もダンスや歌・楽器の音楽類から、ボーイスカウトやガールスカウトなど各種あります。学校だけでは経験できないことが多くあると思います。

人間の育ちは、自然に身につけていくものもあれば、意図的に仕組んで身につけるものがあります。体験は後者でしょう。子どもたちによりよい体験を積み重ねることで、たくましい子どもたちが育っていくことを期待したいと思います。

全国学力・学習状況調査の結果について



4月24日に6年生を対象に「平成25年度全国学力・学習状況調査」を実施しました。教科に関する調査「国語」「算数」（それぞれ基礎知識をみるA問題と応用力を問うB問題を実施）と生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査がありました。この調査で、本校児童の学習状況については、「国語A」において0.1%県の平均正答率を下回ったものの、「国語B」「算数A」「算数B」においては県の平均正答率を上回る結果となりました。国の平均正答率についてはすべて上回っており、概ね良好だと言えます。なお、個別には、次のような傾向が見られましたのでお知らせします。

〔国語〕

- 「国語A」については、最後2つの問題に無解答の児童の割合が多く、時間内に問題を読み解いていくことに課題が見られる。
- 文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことに課題が見られる。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、適切に助言をすることに課題が見られる。
- 目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書くことに課題が見られる。

〔算数〕

- 四則計算（たし算、ひき算、かけ算、わり算）は、概ね正しくできる。
- 単位量当たりの大きさなどに着目して、2つの数量の関係の求め方を記述することに課題が見られる。
- 示された式に数値を当てはめて計算し、計算の結果の大きさを基に判断することに課題が見られる。

〔生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査〕

- 学校に行くのは楽しいと思っている児童の割合が全国や県と比べて多い。
- 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している児童の割合が全国や県と比べて少ない。
- 国語A、Bともに、解答時間が足りなかったと回答している児童の割合が全国や県と比べて多い。
- 起床・就寝時刻が遅く、十分な睡眠時間がとれていない児童の割合が全国や県と比べて多い。
- 家で予習や復習をしたり、自分で計画を立てて勉強している児童の割合が全国や県と比べて少ない傾向にある。

学校では、この調査結果をもとにこれからの児童の学力向上に向けての取組等について検討を重ねているところです。ご存知のように、この調査は4月時点のものであることと学力のすべてをとらえられるものではありません。しかし、本校の児童の傾向を知る上で参考になるものと考えます。基本的な生活習慣・生活時間の見直しなどについても、さらに家庭と連携して取り組むことの必要性を感じております。学校生活の中で、改善できることについては、改善を図り、教職員一丸となって取り組んでいきたいと考えております。

体験活動を進めています



自然体験学習（5年生）

秋吉台青少年自然の家（9/18～20）
秋吉台の雄大な自然の中で、自然に親しみながら集団宿泊生活を体験し、集団行動を通して、自主的に行動することの大切さ協力することのすばらしさ・奉仕の精神の尊さを体験を通して学びました。

2泊3日ですから、オリエンテーリング、ナイトハイク、大理石クラフト、かがり火の集い、ハイキング、洞窟探検とプログラムは盛りだくさんです。

リエグ



スコア
ンテーリン



ナイトハイク

かがり火の集い

雲海



野外炊事

洞窟探検

食事

福祉体験学習（4年生）

4年生は、総合的な学習の時間に福祉について学習をしています。様々な障害や障害を克服するための方法や施設・取り組みを学び自分たちにできることを学習していきます。点字・手話・アイマスク・車椅子体験等をしていきます。



点字体験

買い物体験（3年生）

3年生は、社会科で「店ではたらく人」の学習をしています。その中で、賢い消費者になるために買い物の仕方（商店や商品の選び方等）を学びます。実際に買い物をし、どのように商品を選んだか、選ぶための根拠は何か等について、みんなで話し合いをします。家族から頼まれた、買い物を一生けん命しました。



スーパーの見学・買い物

子どもの防犯ブザー 定期的に点検を！お願いします。

小学校入学時に全員防犯ブザーをもらわれたと思います。その時から、点検をされましたか？

独立行政法人国民生活センターが「小学生が使用していた防犯ブザーの状態調査」を行い、『小学生が使用していた防犯ブザーの半数以上に、電池切れや回路の断線などの原因によって、音が鳴らないなどの異常が生じており、電池の液漏れやふくらみなど、電池が劣化したものもありました。』と報告しています。音が鳴らなかつたり、音が小さかつたりすると、いざという時に役に立ちません。そこで、

☆防犯ブザーを入手した際に、まず音が鳴るかどうかを確認することが大切です。また、いざという時確実に作動するよう、最低1カ月に1回は、保護者が作動確認をしましょう。

☆外部からの強い衝撃が故障の原因になることがあります。防犯ブザーを取り付けているかばんなどを含めて、乱暴な扱いをしないようにしましょう。

☆音が小さくなってきたなどの場合は、電池の消耗が考えられます。定期的に点検をし、音が鳴らなくなる前に速やかに電池を交換するようにしましょう。本体の買い換えも必要かもしれません。

小学生だけでなく、中学生・高校生・大人でも防犯ブザーを所持していると安心を得ることができます。

小郡小ふれあいフェスタのご案内

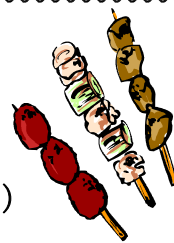
「小郡小ふれあいフェスタ」

10月19日（土）（10：00～13：30）

会場；小郡小学校中庭を中心に

内容；各種バザー（うどん、ホットドッグ、焼き鳥、くじ など）

吹奏楽部演奏、読み聞かせなど



小郡小学校PTA主催

10・11月の行事予定

10月

1日（火）全校朝会

3・4日（木・金）6年修学旅行
（広島・宮島方面）

7日（月）委員会活動

11日（金）4年社会見学

15日（火）にこにこタイム

17日（木）3年社会見学

18日（金）フェスタ準備

19日（土）小郡小ふれあいフェスタ

21日（月）クラブ活動

22日（火）就学時健康診断

28日（月）5年学年PTA活動

29日（火）市小学校陸上記録会（6年）

31日（木）1年校外学習

11月

6日（水）見守り隊感謝の会

11日（月）委員会活動

13日（水）校内音楽会

18日（月）3年学年PTA

19日（火）にこにこタイム

22日（金）山口市小学校音楽会（6年）

25日（月）クラブ活動

26日（火）避難訓練（不審者対応）

2年学年PTA

小郡中の先生授業参観

27日（水）さぎ流狂言参観

5年生の学年PTAは、前号記載より変更されました。
※予定ですから変更の可能性もあります。

